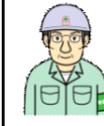
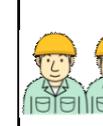


保安取組状況を自己診断してみよう！

以下の自己診断項目は鉱山保安MSを構築、運用する際に、各階層が最低限どのようなことに取り組むべきかを示しています。まずは経営トップや保安統括者、保安管理者などが中心となって以下の項目で自己診断を行い、自鉱山の取り組み状況を把握してみましょう。該当しない項目についてはガイドブックの参考頁を参照し取組強化を図ってください。

分類	No	取り組む階層の目安			自己診断項目	ガイドブック参考頁
		 社長・保安統括者	 保安管理者	 鉱山労働者		
方針	1	◎			<input type="checkbox"/> 経営理念や経営計画を踏まえた保安方針を表明していますか？	12頁
P(計画)	2		◎	○	<input type="checkbox"/> 年に1回以上、全員参加でリスクアセスメント(RA)を実施していますか？	13頁
	3	○	◎		<input type="checkbox"/> RAで見積もったリスクについて、優先度を設定していますか？	16頁
	4	○	◎	○	<input type="checkbox"/> みんながわかる(理解する)具体的な保安目標を掲げていますか？	19頁
	5		◎	◎	<input type="checkbox"/> 保安目標を達成するための具体的な対策を保安計画として立案していますか？	21頁
	6	◎			<input type="checkbox"/> 経営トップは保安計画を承認し、必要な経営資源を提供していますか？	23頁
D(実施)	7	○	◎	◎	<input type="checkbox"/> 保安方針・保安目標・保安計画を全員に説明し、周知できていますか？	24頁
C(評価) ・ A(改善)	8		◎	○	<input type="checkbox"/> 保安計画に基づくリスク低減措置等の進捗を毎月チェック(評価)していますか？	26頁
	9		◎		<input type="checkbox"/> 鉱山保安MSのPDCAは有効に機能していますか？	28頁
	10	◎			<input type="checkbox"/> 経営トップは少なくとも年1回、チェック(評価)の結果を集約し、確認していますか？	29頁

◎: 主として担う階層 ○: 従として担う階層

参考 お問い合わせ先

経済産業省では、鉱山保安マネジメントシステムの構築とその有効化等に関する様々な情報提供や各種取組を行っています。

>ホームページ: http://www.meti.go.jp/policy/safety_security/industrial_safety/sangyo/mine/detail/msshientool.html

ご質問等がある場合には、最寄りの産業保安監督部までお問い合わせください。

- | | |
|-------------------------|-------------------|
| ○ 北海道産業保安監督部 鉱山保安課 | 電話番号 011-709-2466 |
| ○ 関東東北産業保安監督部東北支部 鉱山保安課 | 電話番号 022-221-4962 |
| ○ 関東東北産業保安監督部 鉱山保安課 | 電話番号 048-600-0436 |
| ○ 中部近畿産業保安監督部 鉱山保安課 | 電話番号 052-951-2561 |
| ○ 中部近畿産業保安監督部近畿支部 鉱山保安課 | 電話番号 06-6966-6062 |
| ○ 中国四国産業保安監督部 鉱山保安課 | 電話番号 082-224-5755 |
| ○ 中国四国産業保安監督部四国支部 鉱山保安課 | 電話番号 087-811-8591 |
| ○ 九州産業保安監督部 鉱山保安課 | 電話番号 092-482-5928 |
| ○ 那覇産業保安監督事務所 保安監督課 | 電話番号 098-866-6474 |

2014年3月

<概要版>

鉱山保安マネジメントシステムの構築とその有効化のためのガイドブック

～構築のためのヒント(中小零細規模鉱山向け)～

本資料は、「鉱山保安マネジメントシステムの構築とその有効化のためのガイドブック～構築のためのヒント(中小零細規模鉱山向け)～」(以下、「ガイドブック」という)の概要をまとめたものです。

ガイドブックは、中小零細規模鉱山における鉱山保安マネジメントシステムを推進する目的で作成したもので、実際にいくつかの中小零細規模鉱山の現地調査を行い、鉱山保安の取組実態を調査・分析した上で作成しています。特に鉱山保安マネジメントシステムを構築する際の鉱山が抱えている課題を整理し、それら課題を解決するためのポイントをまとめた実践的なガイドブックとなっています。必ず鉱山保安のレベルアップにつながりますので是非ご活用下さい。



経営トップと保安管理者はまずはガイドブックを一読しよう!

経営トップと保安管理者は、本資料(概要版)により鉱山マネジメントシステムの全体イメージを掴んでいただき、その上でまずはガイドブック(本編)を一読してみてください。



鉱山災害の怖さを改めて従業員に周知しよう!

鉱山保安を全社一丸となって取り組むためには、鉱山災害の怖さを経営トップや保安管理者が認知するだけでなく、全従業員に周知させることが大切です。災害ゼロを継続している鉱山であっても、事故の怖さに対する意識が希薄になり、従業員に油断の気持ちが芽生えます。従業員が集まる機会などに、ガイドブックの2頁、3頁を活用し、周知を図って下さい。



自鉱山の保安取組状況を自己診断してみよう!

本資料の最後に載せている自己診断表を使って自鉱山の保安取組状況を診断してみてください。自鉱山の保安取組における弱点や取り組むべき課題を認識してからガイドブックを読み進めると一層理解が深まります。

